

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 6月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401608
法人名	有限会社 八神
事業所名	グループホーム あまぎり
所在地	〒859-1503 長崎県南島原市深江町丙357番地 (電話) 0957-72-7170

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年6月24日	評価確定日	平成21年7月17日

【情報提供票より】(平成21年6月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6 人 非常勤 2 人, 常勤換算 4.1 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100 / 日額 円	その他の経費(月額)	200円 × 入所日数 円	
敷金	有(円) ⑧			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ⑧	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しろの医院 布井内科医院 泉歯科
---------	------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅と畑に囲まれた閑静な場所にあり開放した玄関から風が吹き抜け、生垣や花や菜園を有し、馴染みやすい環境にある当ホームは、以前の縫製工場を改装し、ゆったりとしている。近くに病院や商店があり、利便性に優れている。殺菌効果のあるお茶を入浴剤に、ルイボスティーを飲料に使い、旬の野菜の鮮度の良いものを食材に使う事に拘っている。職員には「今日は何回笑顔が見れた?」と聞きながら、入居者が楽しく暮らすことに全力投球している。兔・犬・メダカの小動物と触れ合いながら、祖父母・父母・孫の3世代が楽しく生活しているホームであり、今年度は書式の変更と活用方法の見直しを行うことを目標とされ、今後の取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	以前の評価を活かし、改善に向けての努力が窺えるが、定期的な実施ではなく、昨年度は評価の実施は無く、改善に向けた取り組みに至っていない。今年度の実施後は改善に向け改善計画書を作成し、計画的に質の向上に取り組まれる事を期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価への準備は早急であり、全員で取り組む事が出来なかった。職員間において外部評価に対する浸透が及んでいない。毎年度の定期的な実施と、それに伴う自己評価をする事で、ホーム全体の良い点や問題点の把握をし、ホームに携わる者が外部評価を活用し、質の向上に向けた取り組みを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の開催当初は、構成メンバーで苦慮した経緯はあるが、現在は、家族の代表・地域の代表(市議員)・地域包括支援センター・ホーム側により、2ヶ月毎に開催している。日程の変更時には写真入の便りを送付し、参加を促している。又、家族の意見や火災訓練等を含めた建設的な意見が聞け、ホームの運営に活用できている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	「あまぎりたより」を作成し、ホームの様子を伝えるとともに、個別に入居者の写真を編集し送付している。家族の訪問時には声掛けを行い、意見を聞くことに努めている。リハビリ・食事面・地域のイベントへ入居者の参加の是非等の希望を聞くことがあるが、気軽に話して頂く事を大切にしている。開設以来年を重ねる毎に協力的に成ってきている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームの横の民家の人々が近道に庭を通過したり、近くの人が生垣の剪定を率先して手伝ってもらえることがある。又、野菜の交換や、散歩時の会話、地域の商店利用で地域の住人とは顔馴染みであり、自然なお付き合いである。又、小・中学校の福祉体験学習を受託する事で、触れ合いを深めている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を介護の基本や方針と理解し、項目を設け詳細に作り上げているが、入居者が地域の中で暮らすことへの、その人らしい生活への目標となっているとは言えない。		入居者が住み慣れた地域の中での生活の場として、どのように暮らして行くかを考慮した、施設の方針を盛り込んだ、生活の目標となる理念を作り上げることが期待したい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に、「今日は何人笑顔にした?」と目標に掲げ、入居者が楽しく暮らすことを常に考えて支援しているが、理念は介護の方針に留まっており、職員間での共有は困難である。又、現時点では理念を盛り込んだ、パンフレットの作成が無い。		理念は入居者が生活していくうえでの中心的なものであり、管理者をはじめ、職員が一丸と成って支援する為の合言葉的な分かり易い文言を取り組まれると更に良いのではないかと。又、ホームを知らせるパンフレットに理念を掲載し(時には便りにも載せる)、共有を図る取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの横の民家の方が近道に庭を通過したり、近くの人が生垣の剪定を率先して手伝ってもらったことがある。又、野菜の交換や、散歩時の会話、地域の商店利用で地域の住人とは顔馴染みであり、自然なお付き合いである。又、小・中学校の福祉体験学習を受託する事で、触れ合いを深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前の評価を活かし、改善に向けての努力が窺えるが、定期的な実施ではなく、今回の評価実施に向けての準備等も早急で、全員で取り組む事が出来なかった。職員間において外部評価に対する浸透ができていない。		今一度外部評価について、職員全体で話し合い、毎年度の定期的な実施と、それに伴う自己評価をする事で、ホーム全体の良い点や問題点の把握をし、ホームに携わる者が外部評価を活用し、質の向上に向けた取り組みを期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催当初は、構成メンバーで苦慮した経緯はあるが、現在は、家族の代表・地域の代表(市議員)・地域包括支援センター・ホーム側により、2ヶ月毎に開催している。日付の変更時には写真入の便りを送付し、参加を促している。又、家族の意見や火災訓練等を含めた建設的な意見が聞け、ホームの運営に活用できている。		

グループホーム あまざり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは必要時に相談される関係であり、今年度は社会福祉協議会から介護サロンの研修場所として見学をお願いされ、体験を受託している。又、公的扶助の利用者を市の担当者が訪問する事があり、交流に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あまざりだより」に行事予定・病院受診予定・お知らせ・ホームの行事への参加等を載せて発行と同時に、個別に様子が分かり易い写真の編集を作成し、一緒に送付して喜ばれている。出来るだけ家族との関わりを維持する事を目指し尽力している。又、金銭は預かり書を発行し、出納帳と領収書の綴りを見せ、了解の記名を頂き、金銭の授受を明確にしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問時には声掛けを行い、意見を聞くことに努めている。リハビリ・食事面・地域のイベントへ入居者の参加への是非等の希望を聞くことがあるが、気軽に話して頂く事を大切にしている。開設以来、年を重ねる毎に協力的に成ってきている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初からの職員も在籍している一方で、退職や新人と入れ替えは止むを得ないが、新人からは新しい風を入れる意味で入居者の刺激としている。入居者には「色々教えてあげて下さい」と紹介し、関係には注意を払いながら支援をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の良い所を取り入れる事を常として、他県の研修に率先して参加している。又、島原病院の研修会へ参加し、申し送り時等で大切な事や、看護師を中心に内部研修を実施しているが、定期的な職員会議の実施はなく、記録に留めていない。		職員のスキルアップとケアや意識統一を考えると、定期的な職員会議は必要であり、開催日・参加者・伝達事項・研修実施項目等の議事内容を明確に記録に残し、計画的に学ぶ機会を設けられることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島連絡協議会に所属しているが、あまり活動が無い。知り合いのホームには行事への参加を声掛けする事があるが、今までに参加は無く、職員間も知り合いとして話すことはあるが、サービスの向上に繋げる交流まで至っていない。		開設6年目のホームとしては地域では先進的な立場であり、優れている面の伝授を兼ね、他ホームとの交流を積極的にする事で、得る事も多々あると考え、行事への参加声掛けの継続や、入居者と一緒に近隣のホームへ遊びに行く等、相互訪問の出来る関係の確立を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院の紹介が多いが、時には自宅から入居のケースもある。家族がホームを見学し、説明を受けて納得して入居に繋がっている。医療連携室からの情報の提供を受け情報の収集に努め、家族には慣れた布団や衣類の持込みを願ひ、出来るだけ今までの生活の延長になるよう尽力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者にとって管理者は「お母さん」であり、若い職員は孫として考えており、畑の作物や食事に関して、多くのことを教えてもらったり、時には可愛がられる事がある。祖母・父母・孫の三世代が同居しているような関係を保ちながら、支え合って生活している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	退院サマリー・基本情報・入居前情報を含め、新しい書式を取り入れ、入居者の情報収集に努め支援している。又、常に会話をすることで、今何を望んでいるか状況把握に努め支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の希望やアセスメント要約表を活用しニーズに沿って、サービス内容を詳細に記述した介護計画を作成している。担当者会議の職員の参加はあるが、計画の共有にまで至っていない。又、作成した計画書に家族の了解の記名・押印を得ていない。		介護計画は入居者を支援する上の目標であり、職員が共有し理解して、日々のケアや記録する事が必須であり、計画と記録の連動を期待したい。又、記録簿の表紙裏に計画書を貼り共有に繋げ、計画書を家族に見せ、家族の了解の記名・捺印をお願いしたい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメント要約表・モニタリング表・担当者会議(家族の訪問時に急遽開催)を基に、希望を取り入れながら3ヶ月・6ヶ月で見直しを行っている。今後活動実績記録用紙を変更予定であり、日々の様子を次の計画作成に活用できるように職員の統一した記録方法を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携・病院受診・重度化に伴う終末期の支援を行っている。又、車の運転ができない家族が面会希望時の送迎・面会時の家族への食事の提供・宿泊等、家族との関係の維持に重点を置いたお手伝いをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のバイタルや健康面を記述し、受診時はファイルを持参している。ホームは、掛かり付け医院に近く、24時間協力医の適切な指示が仰げる体制を確立している。又、必要に応じて専門医の受診支援を実施している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年度に2名の看取りを経験し、前向きに取り組む意向が伺える。看取りに関する指針を明確にし、家族との話し合いに重点を置き、看護師を中心に病院との連携を取りながら、研修や勉強会に参加しながら、看取りを行っていく方針であり、職員も理解している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームであった事を口外しない事を常に心がけ、入居者に対する尊厳とプライバシーには注意を払って支援している。便りやホーム内に多数掲載している写真に関する取り扱い方法や、現在トイレ介助の困難な一部の入居者に対するケアに関しては、今後職員間で話し合い、方向性を検討予定である。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中でその人のペースを尊重し、食事の時間や全般的な1日の流れを無理強いすることなく、支援している。又、入居者の希望に沿って、行きつけの美容室を利用したり、思いを把握しながら、ゆったりと暮らしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が寛いでいるソファの横が食堂で、出来る仕事(じゃが芋や玉葱の皮むき・食事の準備・御膳やテーブル拭き等)を手伝っている。食事にはホームの思いがあり、旬の鮮度の良いものを提供したいと考え、ホームで採れた野菜が食卓を賑わせる事も多く、職員も一緒に食べており、話題豊富で楽しい食卓である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに体調が悪い人以外は入浴を楽しんでいる。殺菌効果を兼ねたお茶を入浴剤として使用し、風邪をひく人が少なく、又、皮膚疾患にも効果があり、広い浴槽で皆さん入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を理解し、野菜作りが出来る人は庭の畑や草取りに参加したり、モップ掛けや洗濯物干しやたたんだり、出来る事を率先して行っている。又、朝食後の車椅子の誘導介助や肩もみ等、人にも優しい。時には入居者からお弁当の希望があり、野外での昼食をする事があり、変化に富んだ生活支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	あまざり年間行事予定を立て、毎月外出を盛り込んだ計画を実施している。花見や行事見学・ピクニック・季節の行事の他には、日々庭先へ出ることに努め、閉じこもらない生活支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に鍵をかけない方針で、希望者には付き添う事を原則としている。常に入居者の居場所を職員間で確認しながら、玄関は常に開放している。建物の構造上一目で見渡す事が出来、環境が整っている。又、開設6年を迎え、地域の人々の理解も出来てきており、注意しながら自由な生活を支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は消防学校での研修や、職員会議時で話し合うことはあるが、実際の火災・避難訓練を行ったことは無い。消防署による機器の点検や話を聞くことはある。備蓄に関する取り組みは無く、スプリンクラーの設置は現在申請中である。		何時如何なる時に災害や火災が発生するか分からない事を考えると、繰り返し訓練の実施は必須であり、早急に消防署や地域の消防団の参加をお願いした、昼夜の両面での火災・地震・避難訓練の実施を期待したい。又、非常時を想定した備蓄や持ち出し品の準備も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みを取り入れながら、病状や身体状況を加味した食事を提供している。管理者が栄養学を学習し、時には栄養士の指導を仰いでいる。水分にはルイボスティーを取り入れ、1日1,500CCを目安に、ゼリー状やシャーベットにしなから不足しないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物を改造しており、長方形の建物の左右を居室にし、真ん中は広いリビングになっており、洗濯物干し・リハビリソファ・畳の部分と寛げる十分な場所の確保がある。玄関を入るとウサギのゲージと犬が繋がれており、外にはメダカの入った菰樽を置き、季節の花がプランターに育てられ、静かな風通しの良い落ち着いた環境である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、タイルカーペットで、汚れを外して洗えるように工夫しており、入居者の状態に合わせて畳やベットにしている。衣装ケース・洋服掛け・遺影(お茶や水を供える)・生活に必要な品を持ち込み、その人なりの居室で生活を楽しんでいる。		